

平成15年度 第2回（平成15年7月30日）図書館運営協議会 会議要旨

1. 出席者

運営協議会委員（8名）

矢口委員・加藤委員・小杉山委員・中多委員・奥津委員・埜崎委員・日高委員・山本委員（欠席委員2名）山田委員・三輪委員

図書館側委員（4名）

鹿島中央図書館長・広田奉仕係長・坂井視聴覚係長・豊崎戸山図書館長

図書館事務局（3名）

佐藤管理係長・秋山管理係主査・東主任主事

2. 場所 四谷庁舎 51 会議室・四谷図書館・角筈図書館

3. 開会

【小杉山会長】

ただいまから第2回図書館運営協議会を開催いたします。

本日は議事終了後、四谷図書館と角筈図書館を視察いたします。

初めに、委員から要望・意見が出されています。

これについて、回答をお願いします。

【広田委員】

①多文化サービスについて

新宿区には人口の1割をこえる外国人が居住し、在勤者・在学者をあわせると相当数の外国人がいらしゃいます。図書館として、区内在住・在勤の外国人の方に外国語資料を提供する必要があることは承知しています。

外国人が比較的多く居住する施設がある地域の北新宿図書館、大久保図書館と四谷図書館の3館で外国語図書のコーナーを設けて利用者サービスに努めております。

しかし、四谷図書館を除く地域館は施設が狭いため、資料提供のスペースを確保することが難しい状況です。

②保健所との連携について

各保健センターで実施している育児相談、育児支援の母子の集まりの会で、「絵本等の読み聞かせ」を年1回各保健センターで行いたい。そこで「読み聞かせ」について経験と実績のある図書館職員の派遣について、衛生部から要請を受けまして、母子の集まりの会で図書館職員が「読み聞かせ」をすることは、図書館の情報提供と共に母子を図書館へ結び付ける良い機会でもあり、現在、各保健センターへ出向いて、読書指導も行っています。

ブックスタートは衛生部の新規事業として、今年度から絵本でふれあう子育てで支援（ブックスタート）、乳幼児の心健やかな成長、親子がふれあい、楽しく育児ができるように絵本を介して子育てを支援します。

子どもが読書に親しめる環境づくりの準備を保健センターで実施する3・4ヶ月乳幼児検診の際に、乳幼児に対する読み聞かせの意義を説明し、絵本2冊とカバンを配付します。

そこでメッセージに図書館の案内と児童向けのパンフレットを配っていただいています。

必ず図書館員ということになれば、現状では年間48会場で実施のため対応は困難である。保健師の読み聞かせの技量の向上により対応するのが現実的である。

③児童基本図書目録について

現時点で区民の方から児童の基本図書目録についての投書等はありません。購入要望等については随時対応しています。

④司書の人数、役割について

現在、図書館に司書は41人（職員26人・図書館奉仕員14人・非常勤1人）います。各図書館に司書は2人以上配置しています。

司書は、図書館の奉仕業務の中心的役割を担っています。レアレンス・読書相談・選書・図書発注・購入・蔵書構成の管理・予約・雑誌・児童室の読み聞かせ・行事・カウンター業務等を行っています。

⑤インターネットによる予約について

インターネットによる予約については、平成16年度早期実施に向けて検討を重ねています。

インターネット予約を開始すれば、直接図書館へ行かずに、開館時間を気にすることなく、いつでも蔵書検索・予約が可能になります。受取館も指定できます。

また、貸出レシートを紛失してもパソコン、携帯電話などから貸出記録を確認できますし、予約した資料を忘れても、貸出記録同様に確認できます。

カウンター職員の作業量は減りますが、ネット予約を開始した先進区の例をみますと、予約件数が2倍～3倍と大幅に増加しています。2倍～3倍と大幅に増加する予約に対応するための運搬手段、資料を保管するスペースの確保（書架等）、人の問題も含めて検討してまいります。

⑥児童室にコミック雑誌は不必要では

マンガについても「マンガ文化」といわれる側面があり、要望に対して例えば手塚作品等評価が高いもの等については一定程度の対応は必要であると考えますが、限られた資料購入予算の制約の中で、基本的には、公共図書館に性格上一般図書の充実を優先すべきものと考えている。従って、対応としても、マンガ・アニメ本の予約については、所蔵しているものに限り予約を受けており、所蔵していないものについては、視聴覚資料と同様購入希望として受け付けてはいるが、用意出来ない事が多い旨説明しています。

【鹿島委員】

⑦児童館・幼稚園・保育園等との連携について

子ども読書活動推進計画の中で検討していきます。

現在、24施設が団体貸出を受けています。

図書館の連絡配本車で150冊を限度に2ヵ月に1回、図書の配本と返却本の回収を行っています。

⑧高齢者に対する出張所等での本の貸借について

今回の運営協議会における検討項目の一つである「利用者の要望に応える図書館サービス充実策」のひとつとして、高齢者に対するサービスのあり方についての中で議論・検討したい。今後の高齢化社会に対応する必要があるが、どこまでサービスするのかプライバシーの問題とともに財政制約のなかでの検討となります。

⑨図書館が半分に減らされるとの噂について

第1回の運営協議会でも説明したとおり、本年1月策定の「新宿区後期基本計画」及び2月に策定の「新宿区行財政改革計画」も踏まえて、「新たな図書館サービスの展開に向けて、図書館の適正配置や地域に開かれた学校図書館の整備について検討する。」、「学校図書館を仮称ふれあい図書館として整備することやIT（情報技術）を活用することなどによる新たな図書館サービスの

展開について、区民の皆様と議論しながら検討します。これにより、効率的・効果的な図書館サービスへの改善を進めながら、現在の9館体制を見直していきます。」として、この2年間で改めて「図書館サービスの基本的なあり方」について検討していくこととなったものであることをご理解頂きたい。

西早稲田に図書館をという活動が長く続いていることは、過去に陳情も出ており承知している。現状において半径800mの範囲外には、西早稲田や中井・上落合、四谷東部地区などがある。区の面積18平方キロメートルからすれば2平方キロメートルで1館で一応の館数は整備されているが、一部を除き、老朽化・狭隘等の課題があります。

従って今後2年間の議論の後、財政の状況等も踏まえた適正配置の検討のなかで、検討の対象となります。

⑩置き引き等に対応したロッカーの設置について

施設が狭隘であるため、ロッカーの設置は困難である。

四谷図書館の設置に際しても、蔵書スペースの確保を優先したところですが、また、必要なものは掲示するが、なるべく表示物は少なくしていきたい。

【小杉山会長】

ご質問のある方どうぞ。

【奥津委員】

高齢者に対する出張所等での本の貸借について、本のプライバシーとはどういうことか。

【鹿島委員】

貸出・返却の際に誰が何の本を借りたのか、図書館以外の施設で端末等入れるなどして本を扱う場合はプライバシーの保護に注意が必要である。図書館では返却時もタイトルが見えない形でバーコード消し込みしており配慮しています。

【中多委員】

外国人の利用状況はどうか。

【広田委員】

大久保図書館は中国書のコーナーがあります。

四谷図書館は外国語の蔵書約2,600冊、新聞7紙、雑誌35種揃えています。

外国人の利用は多い。

【鹿島委員】

高齢者サービス・外国人サービスについては、今後の検討項目に追加していきたい。

【小杉山会長】

引き続いて本日の協議事項、「新宿区立図書館の理念・役割」についてです。事務局から資料の説明をお願いします。

【秋山管理係主査】

資料1 新しい時代（生涯学習・高度情報化の時代）に向けての公共図書館の在り方について

〔昭和63年2月9日 社会教育審議会社会教育施設分科会報告〕

*中間報告となっているが、最終報告はない。

資料2 図書館の情報化の必要性とその推進方策について 地域の情報化推進拠点として

〔平成10年10月27日 生涯学習審議会社会教育文科審議会計画部会図書専門委員会報告〕

【小杉山会長】

社会教育審議会は平成元年に生涯学習審議会に変わった。15年経過して色々変わってきています。

【中多副会長】

昭和63年の社会教育審議会報告は、基本的な図書館の機能は書かれています。

今、求められていることは、地域ぐるみで横の連絡＝ネットワークをつくって、家庭・地域・学校・図書館など地域社会全体で子どもたちに対応していくことです。

社会教育施設において、調べ学習・総合学習については乳幼児からの対応が必要になってきています。

図書館や保健所が中心になって、赤ちゃんの時から「読み聞かせ」を支援するなど、基本的な図書館の機能は時代を超えて変わっていないが、手段・方向性が変わってきています。

【小杉山会長】

もうひとつ大きな方向として学校教育との関わりがあります。

公共図書館と学校図書館との連携・協力体制が重要になってきています。

住民に開かれた「地域の学校」になることです。

また、平成10年に生涯学習審議会が「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」文部大臣に答申している。この中で、社会の変化に伴う人々の多様化・高度化する学習ニーズや生涯学習社会の進展等の新たな状況に対応した社会教育の推進が述べられています。

【矢口委員】

ITの進展による電子図書館化が進んでいるが、人と人がふれあうこと、顔と顔を合わせる事が大切だと思います。

【中多副会長】

コンピューターは手段、基本はすべて人間です。

人間が人間を育てていくものであり、行政に求められるのは、条件整備です。

図書館は、ものを考え、イメージし、創造活動に繋げていく場所であり、読書の大切さは、言葉の獲得と言葉によって表現された内容についての感性とか理解力を自分の中で育てていくことにあります。

【小杉山会長】

「読み聞かせ」は導入部門です。最も大切なことは、自分の意見をコミュニケーションし、人の意見を聴いて、それをどう判断するかにあります。

【中多副会長】

家庭が基本です。親が子どもに読み聞かせることによって、子どもとの対話が生まれます。

また、図書館と保健所との連携が大切です。図書館が主体的に関わって、ボランティアの人々と協力し合いながら地域にサービスしていく。

【小杉山会長】

家庭の中に入る乳幼児対策は最も難しい。

また、大人が変われば子どもが変わるということで大人対策も重要です。

住民からの要請をどうとりいれていくか。

【矢口委員】

図書館情報システムについてチームで検討しているとのことですが。

【広田委員】

インターネットによる予約については、平成16年度早期実施に向けて「ネット予約検討会」で検討を重ねています。

現行の図書館情報システムの中でできるだけ対応していきたいと考えています。

インターネット予約を開始すると予約件数が大幅に増加します。特に中央図書館と四谷図書館に予約が集中すると予想されます。

カウンター職員の作業量は減りますが、それを大幅に上回る量の予約蔵書の搬出入に対応する人員が必要になります。

【埜崎委員】

情報量の拡大に伴い、受ける側の情報活用能力の育成が大切です。

図書館で相談できる、情報提供が受けられるということをわかりやすく周知して欲しい。

町会の回覧に「図書館のお知らせ」を掲載するなど、各家庭に図書館の情報が届くようになればいいと思います。

【広田委員】

インターネットのホームページに「図書館のお知らせ」があります。

以前、四谷図書館については、区民センターだよりに掲載したことがあります。

また、リサイクル本について四谷地域センターにお願いしています。

【中多副会長】

相談できるというインフォメーションを図書館側から行って欲しい。

貸出返却カウンターでは相談しづらい。相談専用のカウンターを設置し、司書を配置し、住民が気軽に相談できるような体制が望まれます。

【小杉山会長】

司書の大きな役割は、相談窓口・レファレンス機能です。

【佐藤管理係長】

司書は各館に2人以上配置しています。図書館全体では41人です。

職員がローテーションでカウンター業務に従事しており、常に司書がいるという体制は困難ですが、窓口の相談機能については向上できるよう努力していきたい。

【矢口委員】

司書の職員は増えていますか。

【佐藤管理係長】

23区の職員は司書資格での採用はありません。

現在、年に3人の職員を司書講習に派遣し、司書資格を取得しています。

また、司書資格を有する方を「図書館奉仕員（非常勤職員）」として採用するなど司書の増員に努めてまいります。

【鹿島委員】

基本的に今後何回か「役割論・理念論」を協議いたしますが、現実と切り離れた理念ではなく具体例を出しながら行っていきたいと考えております。

4. 閉会

小杉山会長、閉会の挨拶。

5. 地区館の見学

四谷図書館と角筈図書館の見学を行いました。